



回収作業の様子 (倉部区内、6月24日)

**身近な環境に目を向けて、
地域あげて取り組んでいます**

区長部会・生活環境部会
柘植地域は古代より伊勢の国と畿内を分ける分水嶺の西のふもとに位置し、緑豊かな環境を守ってきました。しかし、身近であった山林も間伐などの手が加えられないところが多くなり、不法投棄や獣害被害の温床となっています。

柘植地域

まちづくりだより

第177号

命にかかわる「水」について



10月18日(火)午後、市民センターで、私たちの暮らしになくてはならない「水環境」について、また伊賀市水道事業の計画では廃止が予定されている「朝古川浄水場」の現状などについて、幅広い内容で学習会を開催しました。

サルには・・・、 山で暮してもらおう



10月20日(木)午前、柘植地域周辺のサル生息状況と、これからのサル被害軽減のための作戦や方針の共有を図る会議を実施しました。

三重県農業研究所の山端直人さんから、今後サルには山でのみ生活できるように、「里に下りようと思わせない学習」をさせることが大切とお話がありました。

そのために、「サルどこネット」の活用を進めるとともに、岡鼻地区への「電波受信機設置」によるリアルタイムの位置情報共有と煙火による追い払いの複合作戦を確認しました。



スマホで簡単にサル情報の収集提供ができます。…詳しくはまち協事務局へ



発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
(柘植地区市民センター内)
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
〒五一九一四〇二
電話 四五・八八八〇 FAX 四五・八八八三

発行日

二〇一六(平成二十八年)十一月一日(火)



10月15日(土)午前、伊賀トレイルランナーズクラブ事務局とまちづくり協議会や倉部区・余野公園保勝会のメンバー約25名が、油日岳から奥余野公園に下りてくる手前の老朽化した階段を、伊賀市より提供していたいただいた階段30段分の資材を使って、修繕しました。



登山道、修復しました。
6日のトレイルランニング大会を開催

大雨で傷んでいた市道「横地野線」もレースの復路コースとなるため修復をしました。当日、全国から来るランナーにレースを楽しんでもらいたいものです。

**故郷といえは柘植より
頭に浮かんで来ません**

小説家・横光利一 文学碑展

10月12日(水)～1月8日(日)

小説家「横光利一」は小学校の同窓で親友の澤井善一さんにあてた手紙の中で「やはり故郷といえは柘植より頭に浮かんで来ません」と書いています。

利一は6歳の頃、柘植の地でランプを初めて見ました。また上町区の伯母の家で、半年間、下宿をしました。小学校は元郵便局周辺の東柘植尋常小学校(現・柘植小学校)に野村区の下宿先から4年間通学をしました。

日本で初めてノーベル文学賞を受賞した「川端康成」は「横光利一」より2歳年下で生涯の友人です。双璧の「横光利一」は大正から昭和にかけて日本の代表的な作家として活躍し、『文学の神様』と



柘植公民館裏の碑



大分県宇佐市光岡城跡の碑

いう呼び名をつけられました。50歳という若さで亡くなりました。

横光利一は幼少期を柘植・野村で過ごし、小学校の生活や交友関係、自然の中の遊び、母の叔母たちとの体験・経験を題材として文壇に登壇、作品『火』『南北』『笑はれた子』『村の活動』『芭蕉と灰野』『三つの記憶』を発表し、あわせて多くの作品を執筆しました。

野村は母の故郷ということだけでなく、幼少期に柘植や野村で体験したことが『文学の神様』を生んだ下地になったことを誇りに思います。

また、作家として戦後の出発点に柘植での思い出を綴った作品『洋燈(ランプ)』を執筆中に病に倒れ、絶筆となったことに特別な思いがします。

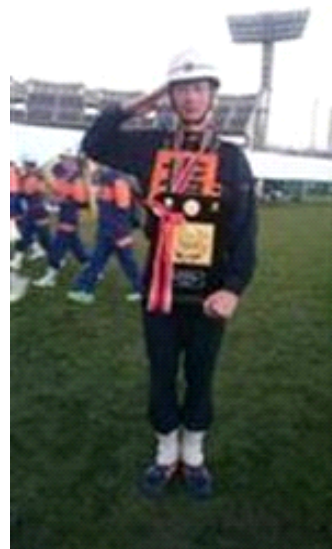
横光利一を顕彰する文学碑や記念碑が、利一の父母、奥様のふるさとや東京の居宅地のほかいくつか建てられています。

柘植歴史民俗資料館ではこれら文学碑や記念碑を紹介する小説家「横光利一」文学碑展を開催中です。(前田明伸)

全国消防操法大会 伊賀市消防団優勝 増田貴臣さん(小杉区)、優秀選手賞に輝く

10月14日(金)、第25回全国消防操法大会が長野県長野市にある南長野運動公園オリンピックスタジアムで開催され、伊賀市消防団は三重県の代表として「小型ポンプの部」へ出場しました。この全国大会は、「ポンプ車の部」と「小型ポンプの部」の2競技あり、各都道府県の予選を勝ち抜いた消防団が出場しました。

「小型ポンプの部」には、22隊が出場し、三重県代表として出場した伊賀市消防団はその頂点に立ち優勝の栄誉に輝きました。三重県の代表として「小型ポンプの部」で優勝をしたのは、初めてであり素晴らしい快挙を成し遂げました。さらに、指揮者として出場した増田貴臣さん(小杉区在住：写真)は、「優秀選手賞」を受賞しました。



訓練は、昨年11月から週3回の夜間訓練が始まりました。そして三重県大会では優勝！8月末からは、全国大会に向けて人工芝会場を借りてさらに訓練を積み重ねました。

約1年にわたる厳しく地道な訓練を通して、選手どうしが強くつながり、家族に支えられ、指導者や多くの団員に支えられ乗り切ってきました。

今後も、「伊賀市消防団」が一丸となって、伊賀市民の安全・安心を守る消防団活動をしていきます。ご支援、ご声援！有り難うございました。



(伊賀市ホームページより転載、一部加筆修正)

平成28年度

「しぐれ忌」のご案内

山出区では芭蕉さんの遺徳を偲びその偉業を顕彰しております。



11月12日(土)、松尾家の菩提寺とされる山出区萬壽寺にて公益財団法人芭蕉翁顕彰会主催のもと「しぐれ忌」が営まれます。

午前9時30分、開会、コーラス「ユー」による『芭蕉讃歌』の合唱、開式の言葉、顕彰の言葉を、その後、法要、墓参、献花を行います。10時20分からは本堂にて山出区しぐれ忌協賛事業実行委員会主催の記念講演会を開催します。

横光利一の中の芭蕉と俳句

講師：福田和幸さん

「雪解のつどい」実行委員長
公益財団法人伊賀文化産業専務理事

(11時50分閉会予定)

境内では女性部による甘酒とお茶の接待、山出区有志による菊花と寄せ植え展、本堂では柘植小児童の絵手紙や手向句集の展示、本堂桃青殿では「芭蕉翁献詠俳句」の特選句が掲示されます。

駐車場も用意しておりますので、皆さまのお越しをお待ちしております。

山出区しぐれ忌協賛事業実行委員会

松阪で、柘植の保育園・小学校が人権同和教育の実践を報告 加えて、柘植保育園は全国で報告することに…

★三重県の研究大会では、柘植地域から下記2つの発表・報告がありました。

- ① 「にこフェス」で、差別をなくす力につなげる (柘植小学校・中森敏文先生)
- ② 同じ方向を向いて
～伝える気持ちを取り戻したMの母と共に～ (柘植保育園・奥出成美先生)

「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する『教育』を確立しよう。」をテーマに、10月15日16日、第50回三重県人権・同和教育研究大会が松阪地方の会場で開催されました。

また、柘植保育園の実践が11月26日27日に大阪で開催される第68回全国人権・同和教育研究大会で三重県を代表して実践報告することに決まりました。

先生方、日々の実践、ありがとうございます。またこれからもよろしくお願いします。

10月1日(土)、2つの保育園統合後、初めての運動会が開かれました。当日は雨上がりということで、運動場ではなく柘植中学校体育館で実施されましたが、それもまたよい思い出となったことでしょう。



○●事務局だより○●

▼いがまち展覧会が10月22日23日に開催されました。

▼バザーへのご協力ありがとうございました。後日会計報告させていただきます。

▼これまで、西柘植まち協さんが会場周辺で出店をされていた、場を盛り上げて

いただいたおりましたが、今年からは、柘植まち協・壬生野まち協も出店して、「いがまち展覧会」をより盛り上げようということになりました。

▼柘植まち協からは、特産品創出実行委員会(あんまき)と女性部会(手作りトートバック)が公民館前のスペースで出店いたしました。▼また、



ふるさと会館いが小ホールでは、恒例のまち協の発表コーナーが設けられ、柘植まち協からは、実施した事業単位で画用紙にその活動の様子をまとめて発表しました。見学に来ていただいた方からは「わかりやすい」と好評でした。▼ところで

旧柘植保育園跡地については、現在まで7回の検討委員会や視察・懇談会などを開き、ようやく中間案づくりが視野に入ってきました。まとめり次第ご報告いたします。▼3月、閉園記念に植えた

「こぶし」はこの夏の強い日差しを受けて、新緑が元気に育ち、約50cmの背丈になっていきます。(西田方計)

